高齢者の豊かな生活のために　　２０１９年７月１日発行

手 賀 沼 通 信（第２５６号）

Ｅメール：nittay@jcom.home.ne.jp　http://ynitta.cocolog-nifty.com/blog/　新田良昭
http://jfn.josuikai.net/semi/koyukai　http://tegatu2.web.fc2.com

今月も投稿いただいた「私のチャレンジ」です。

美崎様は我孫子市在住で我孫子の文化を守る会の会長を務められ、我孫子市に別荘を持っていた嘉納治五郎の銅像を建てようと頑張っておられます。

田中様は昭和２年生まれの９２歳で現役の英語講師です。野田市の職業訓練センターで教えておられます。手賀沼通信の最高齢の読者で、いつもご投稿いただいています。

サトウハチローの想い出　美崎大洋　７５歳

新田自然さんのサトウハチローの文章を読んで約６０数年前の小学生の時の記憶が蘇りました。

我が家の居間に次のような額に入った色紙があります

わらべうた
つくる幸せ
わらべうた
うたう幸せ
サトウハチロー

小学校６年生の時にサトウハチローから貰ったものです。当時小学校で合唱をやっていた１０人くらいの仲間たちにハチローがくれたものです。

小学校の名前は中野区立上高田小学校（来年４月より他の小学校と統合して令和小学校となる）。昭和２８年度、２９年度と２年連続で NHK 全国音楽コンクール（現在はＮコンと呼んでいる）に出場、男の子だけ２０人の合唱で全国１位になりました。私は当時、それぞれ４年生と５年生でメンバーとして参加しました。３年連続優勝がかかる昭和３０年度は指導してくれている先生が優勝の見込みがないと判断されたのでしょうか、最初からエントリーをしませんでした。NHK のコンクールには出場しませんでしたが、その代わり他のコンクールやラジオ番組などに参加・出演しました。

そのひとつに民放の「新童謡歳時記」という番組がありました。この番組は毎週、サトウハチローが作った詩に何人かの作曲家が曲をつけ新しい童謡として電波に乗せて放送し PR するという番組でした。「小さい秋みつけた」もいい歌で沢山の人に唄われましたが、その番組で初めて公開されその後、小学校の音楽の教科書に採用された歌に「秋の子」があります。国内で初めて唄ったのはわれわれでした。

当時、珍しかったテレビ番組でもご一緒したことがありました。添付の写真はその時のものです。サトウハチローは気さくで全く子供のような感性で我々に接してくれました。

新宿の「中村屋」で一緒にカレーを食べたことがありました。その時に次のような話を我々の前でしてくれました。

「私が子供の頃、山でキジを捕まえようとしたことがありました。私は誰かから「お尻にタクワンをつけて腹ばいになればキジはそれをキジの尻尾と見間違え、仲間と思って近づいてくる」と聞いたのでタクワンをお尻につけて待っていたが結局捕まらなかった。実はタクワンは長い状態のままでつけることだったようだが、私は間違ってタクワンを小さく切ったものをつけたんだ。その後、

そのタクワンを妹が食べてしまったおまけまでがついたんだ」と屈託ない表情で語ってくれました。小さい子供でも嘘であることがすぐ分かるような話でした。小学生のわれわれはそれでもハチローがわれわれを楽しませるためにそんな冗談を言ったことと理解できました。

冒頭に示した色紙に書かれた詩はその時に記念に貰ったものです。

歌をつくる人・サトウハチローとその歌を唄うわれわれのことを詩にしたものです。

私のチャレンジ　　田中通義　９２歳

人生は「チャレンジ」の連続。未だに英語の学習と教えることに興味津々。どうしてだろうと問われると、応答に苦しむが、一つの言語を習得するには一生かかっても完成しない魅力がある。自身の母国語がどれだけ拙いか、誰もが知っている。しかし日常生活には不便を感じない。だから敢えて学習する気になれない。他言語の学習は異文化を知り、表現の違いも様々、やればやるほど興味が湧く。そしてまた「チャレンジ」精神が旺盛でなければ長期にわたる継続は難しい。

私が英語に興味を抱いたのは、もしかすれば、あの忌まわしい昭和 20 年 8 月 15 日の敗戦の時かも。いや同年 10 月、現在の 38 度線近くの春川飛行場から、軍服に背嚢を背負って、18 歳の同期生１00 人ほどが敗戦の屈辱を噛みしめ南下、釜山港で乗船直前の出来事であったかも。武器弾薬を大きな穴に投げ込み、事実上の武装解除となる。縦隊に整列する中、米兵が私たち一人一人の持ち物の検査を行う。旧制中学で習得した英語で話しかけたが一向に通じない。腹立たしい、然し、かすかながら私の英語への興味が芽生えたようだ。

復員船はようやく鳥取県境港に到着。ここで下船、岡山へと向かった。汽車を乗り継ぎ横浜駅で下車することになる。横浜駅は米兵で埋め尽くされ、プラットホーム越しに大声で話し合う情景は、はて、ここはどこの国だろうか、と疑ったほど。以降アメリカを知るにつけ、日本の敗戦はあらゆる面で国力の差、と思うようになった。

復員後一年ほどたったある日、道路に面した私の部屋を通して信じられないことが起こった。窓硝子越しに捉えた一人の男、何と同期の元竹君ではないか。窓を開け「元竹君」と大声で呼んだ。振り向きざま「おお、田中君」と驚異の眼差しで私を見返る。百万分の一の確率かも、復員後の彼の住所すら知らなかったのだから。まさか私の近くに住んでいたとは。互いに興奮して話がつながらない。

冷静さを取り戻し直近の生活を話すうち分かった。彼は東京練馬の米軍駐屯地で、何と通訳をやっているという。私の英語への「チャレンジ」に拍車がかかった。元竹君を追ううち、東横線祐天寺駅近くの高級住宅街に住む、ある邸宅の子女に英語の家庭教師を今やっているが、都合で辞める、と言う。「田中、代わりにやってくれないか？」。私には経験がないものの「チャレンジ」してみよう、と引き受けた。初夏の夕方 6 時ごろ往訪、呼び鈴を鳴らすと玄関わきの応接間から甲高い子女の声。

「田中先生が来られた」。若かった私は胸の鼓動を抑えながら応接間へと向かった。戦後消失した家を建て替えた応接間で、良家の子女と向き合って英語を教えたのは一年程度であったが、これも「チャレンジ」の賜と振り返る。

現在、野田職業訓練センターで、週一回英語の授業を行っている。ここでの授業が来年で 20 周年を迎える。あっという間の日時の過ぎようであった。いつの間にか 92 歳、然し「チャレンジ」精神だけは未だに旺盛である。今年で、来年で辞めようか、と思ったことも。辞めてどうする、何をする、自問することしばしば。

その都度思う、英語以外に余生を意味付ける価値ある学習があれば、と繰り返しながらここまで来た。何かしなければ加齢とともに認知症へと進むだけ、と思考の繰り返し。

センターでは現在、英語の講座に外国人５名、韓国語に韓国人１名、中国語に中国人１名、スペイン語にスペイン人１名、イタリア語にイタリア人１名、と多くの外国人が携わっているが、語学関連講座に携わる日本人は私一人。開所当時は私一人で英会話のビギナー・中等・アドバンスの 3 クラスを受け持ち、午前、午後に分けて担当した。常日頃、英会話はネーティブに任すべし、と思っていた私は講座内容を変えながら、現在の「時事英語」に到達した。

「時事英語」選択の理由は、英語を通じて世界の出来事を知ること。私流にいえば、欧米諸国への観光旅行を目指すのではなく、刻刻変化する世界の情勢を知り、日々対応できる知識を持つ必要性を強く感ずるからである。出来れば英語で世界の出来事について議論できるようにしたい。幸いインターネットで世界のメディアからの情報を得ることができる、そこで相応しいと思われる記事を教材とすることが可能。

このような事にも「チャレンジ」した。
13 年前、７９歳の時、（元）千葉県生涯大学校の、ある講師から事情があって辞めることになった、引き継いでくれないか、との依頼があった。英語の講師ではないので逡巡したが、「チャレンジ」してみよう、との思いで引き受けた。講義の課題は「成熟社会と高齢者の学習課題」、「生きがいと生涯学習」の２コマ。むしろ私が学習したいテェーマ、早速講義内容に取り組み、パワーポイントの活用を思い立つ。

学校の所在地は、夫々、外房学園（茂原市）、東葛飾学園（浅間台松戸市）、京葉学園（千葉市）、東総学園（銚子市）、南房学園（館山市）、東葛学園（江戸川台流山市）の６校、年１２回講義。最北端の野田市から最南端の館山市までは内房線で４時間ほどかかった。最終講義は平成２６年１０月１４日までの８年間に及んだ。振り返ると楽しくもあり、またハードシップを伴うものでもあった。

次には、私から若い方々に「チャレンジ」する機会を提供したく思うこの頃です。

この後は投稿ではなく、いただいたメールから「私のチャレンジ」にあたると思われるものを私の独断で掲載させていただきました。
メールをいただいた方には了解をいただいております。

妻と私のチャレンジ　　鎌田肇

最初は日本アイ・ビー・エムの元同僚の鎌田様です。

手賀沼通信第２５２号拝読しました。
いつもありがとうございます。

我家にも偶然受験の話題があります。
新田さんにお伝えしたことがあったかどうか忘れましたが、私の家内は通信教育の現役大学生です。
諸般不都合で延び延びになっていた卒業の見込みがつきました。
１０年前私が「もうサラリーマンは卒業する」と言って退職した時、「では私は専業主婦を卒業します」と宣言して勉強を始めたのです。
実は家内は都内でも有数の進学率を誇る都立高校の卒業生です。ところが当時流行した「女子大生亡国論」を信じた両親が、大学進学に反対して受験すら許してくれなかったそうです。
その心残りを晴らすために一心になり卒論は合格したのですが、その時点で脳梗塞入院となり休学の憂き目となりました。右手に残った後遺症で中々復学できなかったのですが、昨年ようやく復学を果たしました。
でも卒業に必要な単位を揃えるには苦手な分野の科目も幾つかあり、２度不合格の難関科目にようやく最低点で合格した次第です。

手賀沼通信第２５３号拝読しました。
いつもありがとうございます。

退職以来暇つぶしに野菜作りをしています。
挙げられているベストテンの中、玉ねぎ以外（ジャガイモ、キャベツ、ダイコン、ハクサイ、サツマイモ、トマト、ニンジン、レタス、キュウリ）は全部作っています。
数年前に農協の「家庭菜園２級」という検定試験に合格しました。以来３年間武蔵野市の農業塾でアシスタントをしました。その後隣接する練馬区の体験農園へ移籍して６年目です。
２５３号の内容が、試験問題の内容と酷似していて驚きました。

私のチャレンジ　　鶴岡道夫

鶴岡様は松山南高校の７年下の後輩です。同期生で「文化フォーラム　やまなみ」を結成し活躍されています。

私はボケ防止のため、考古検定に挑戦しています。
内閣府認定　（公財）日本文化財保護協会主催で、毎年１１月に試験があります。入門、初級、中級、上級、最上級とあり、今年やっと上級に合格しました。
上級のレベルは大学の考古学科卒業程度とあり、この歳で初めて３浪しました。次は大学院修士卒業レベルの最上級に挑戦しようと頑張っています。
記憶力が悪くなり、記述式では、固有名詞が出てこないで、詳細な記述ができなくなり不合格が続きました。
勉強のための遺跡巡りで体力がつき、かながわ考古学同好会の副会長になったり、カルチャーセンターの講師になったりしています。
90 歳までは健康でいたいと思っています。

私のチャレンジと健康法　　小川えみ

小川えみ様はプロのソプラノ歌手です。
柏の高齢者の会「あけぼの会」主催のコンサートで何度も素晴らしい歌声を聞かせてくださいました。

チャレンジ
やはり、オペラをやりたいです。
椿姫!!　アイーダ!!　ノルマ

健康法
第一によく寝ること！
美味しい野菜をよくたべること
純度の高いハチミツを毎日ティースプーン一杯!!
歌を歌うこと！

手賀沼通信ブログ抜粋

２０１９年ソプラノライブショー（ＮＯ．１２０２）（平成３１年１月１８日）

平成３１年１月１６日、ミニあけぼの会のソプラノライブショーで素晴らしい歌と中華料理を楽しんできました。一昨年の１０月以来です。
場所はいつもの銀座アスター柏店、出演もいつものソプラノの小川えみさんです。
ミニあけぼの会も高齢化が進み会長は９０歳、会員の最高齢者は９３歳、平均年齢は８５歳を超えています。今回の参加者は会員以外の人も加えて１７名でした。
長いお付き合いの小川えみさんは会員の高齢化にそってお年を加えているはずですが、昨年秋にはフランスリヨンでの公演を経験し、声のほうはますます磨きがかかっていました。
歌ったのは、日本の歌曲「この道」など８曲、オペラ「ある晴れた日に」などを７曲で、最後にみんなで「ふるさと」と「高原列車は行く」を合唱してお開きとなりました。お土産はいつもの山吹饅頭に落雁が加わっていました。